愛媛県立伊予高等学校
Iyo Senior High School

〒791-3102
愛媛県伊予郡松前町北黒田119番地2
Tel 089-984-9311
Fax 089-985-0622
サイト内検索

メニュー 編集

- ホーム
- 学校紹介
- 学科・コース
- 行事予定(月別・年間)
- 部活動
- 進路情報
- 取り組み
  - 生徒会
  - 家庭クラブ
  - 教育相談室より
  - 保健室より
  - 人権・同和教育
  - ICT教育
  - アクティブ・ラーニング
  - 自転車交通マナー
  - 奨学金案内
- 入学を希望する方へ
- Q&A、お問い合わせ、ダウンロード
- WebMasterのお部屋

お知らせ 編集

現在、ありません。

※※ 注意 ※※ 編集

同窓会事務局や、伊予高校事務を名乗り、卒業生に同窓会名簿の住所等を確認する電話がかかっています。同窓会事務局から電話で個人に名簿の内容を確認することはございません。本校同窓会事務局や伊予高事務とは無関係なものですので、くれぐれもご注意ください。

リンク 編集

検索 リンク追加 リンク編集

pickup
- いじめ防止基本方針
- 非常変災時の対応
- 発信！高校生記者（愛媛新聞）
- 愛媛県教育委員会高校教育課 - 学校の魅力化の取組

伊予高校
- 旧 伊予高等学校ホームページ
- 伊予高校同窓会

愛媛県
- 愛媛県
- 愛媛県教育委員会
- 愛媛スクールネット

地域
- 松前町
- 伊予市

その他
- 大学入試センター
- 国立情報学研究所

ご案内 編集

※県立学校、中等教育学校の魅力ある活動を集めました。こちらのページをご覧ください。

県立高校・中等教育学校 魅力化の取組

※このWebSiteは一部のコンテンツの閲覧にAdobe Readerが必要です。

Get ADOBE READER

※このWebSiteは国立情報学研究所が次世代情報共有基盤システムとして

アクティブ・ラーニング推進拠点校

記事を書く　カテゴリ選択　100件

2018/06/13 【ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ】第一回相互授業参観週間

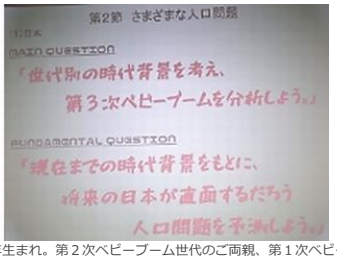
by:WebMaster

○開催日時　６月４日（月）- ８日（金）
○開催場所　本校

本県では昨年度に引き続き、アクティブ・ラーニング推進事業を実施しております。３年計画の３年目に突入しました。事業最終年度の本年度も本校はアクティブ・ラーニング（以下ＡＬ）に先進的に取り組むＡＬ拠点校に指定されました。２年間の実績、課題を踏まえながら本県並びにわが国の未来を拓く人材育成に努めていきたいと教職員一同気を引き締めております。今年度も、その取組を随時このＨＰを利用して掲載していきたいと思います。

６月４日（月）から８日（金）まで第一回相互授業参観と銘打って、先生方が互いに授業を参観しながら研鑽に努めています。特に７日、８日は授業公開ということで、多くの保護者地域の方にも参観いただきました。流石３年目、確実に授業改善がなされています。先生方はしっかりとその時間の目標（めあて）を明確にし、付けようとする学力がはっきりと分かる授業、授業構成です。グループ活動有り、ＩＣＴ活用有り、講義でしっかりと基礎を押さえる授業有り、多様な授業の一端を掲載します。

３年生理系クラスの地理Ｂの授業では、「世界の人口問題」を学習した後、日本の人口問題について課題学習に取り組んでいました。



現高３生は、平成１２?１３年生まれ。第２次ベビーブーム世代のご両親、第１次ベビーブーム世代付近の祖父母をもつ生徒も少なくありません。しかし、自分たちの世代は、「少子化」の真っただ中にいます。
授業では、自分たちの両親、祖父母が１０代後半だった頃の時代背景を調べつつ、なぜ、第３次ベビーブームは起こらなかったのか、さまざまな資料をもとに分析していきました。

授業の後半では、自分たちが今度は高校生の親になっているかもしれない２０４０年代、日本社会や世界はどのようになっているだろうか、日本はどのような人口問題に直面しているだろうか、という問いにも積極的な議論がなされていました。

また、本校の卒業生６名が、教育実習生として授業実践に取り組まれていました。実習生の先輩からもいい刺激を受けて、頑張れ、伊予高生！！

編集 | 削除　10:37 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2018/03/30 【ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ】高校生ＡＬ推進事業公開授業

by:WebMaster

○開催日時
　１月３１日（水）１３：００-１６：３０
○開催場所
　本校（愛媛県立伊予高等学校）
○公開授業
　生物基礎　松浦哲也　教諭
　保健　東正太　教諭
　コミュニケーション英語1　土居宏興　教諭
　素描　奥定知亮　教諭
　※　外国語の授業公開は平成２９年度県立学校ＩＣＴ教育推進事業の授業公開を兼ねる。

松山Ｃブロックの拠点校である本校において、公開授業（Ｂ班）が行われました。前回のＡ班に引き続き、ブロック校の各校から多くの先生方に参観いただくとともに、また今回も地元松前町の各中学校からも参加いただきました。Ｃブロックは小規模校や専門高校を含み、多様な視点でのＡＬが考えられます。その学校ならではのＡＬが話し合われ今回も有意義な情報交換会が行われました。
これで今年度のＡＬ推進事業のすべての企画が終了しました。確実に我々の意識も高まり、日々授業改善が進んでいるという実感があります。ＡＬという手法を用いて生徒に付けたい学力を身に付けさせる。今回の前にいる生徒にどのような力が足りないのか、何ができて何ができないのか、等々しっかりと見極めながら精進してまいります。今年度も本校ＨＰの中からＡＬの記事を選択、お読みいただきありがとうございました。

開発したNetCommons2を利用しています。

カレンダー 編集

2018
09

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	1	2	3	4	5	6

本日までの来訪者 0959447

愛媛県の歌

えひめ教育月間

編集 | 削除 12:26 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2018/03/28 【ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ】「ＡＬチームえひめ」研修会 | by:WebMaster

日時：１２月２５日（月）１７：３０-
場所：済美高校　生物教室

以前本ページでも紹介させていただきました７月に立ち上げた「ＡＬチーム松山」。第１回目の研修会が実施されました。愛光高校の寺崎先生を代表に、当日は済美平成、済美、松山南からの参加多数。済美高校に会場をお借りして、まずは４名による今年度の研修報告をＫＰ法（紙芝居プレゼンテーション）で行いました。その後、寺崎先生よりの企画、ＡＬＰ（アクティブ・ラーニング・パターン）で研修しました。ＡＬＰは、ベネッセ考案、グループに分かれ、引いたカード（色々と考えさせられる文言が書かれています）について各人が語るというワークショップの一つです。日頃自分の考えていることの振り返りや他の先生方の考えていることを知ることができ、有意義なＡＬとなりました。その後、今後の会の在り方や規約等を詰めることを確認しました。現在日本全国所々にＡＬチームができ、各地の先生方が自己研鑽に努めておられます。松山でもやっとという思いで、学んでいます。この度、志は高く、「ＡＬ松山」から「ＡＬえひめ」に改名しました。研修会始め、講師招聘や公開授業等、今後益々活発な活動になればと考えています。（Ｎ．）

編集 | 削除 16:03 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2018/03/22 【ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ】教職員研修 | by:WebMaster

○日時：平成２９年１１月３０日（木）１３：３０-１４：３０
○場所：本校会議室
○講師：佐藤雄太郎氏（代々木ゼミナール教育総合研究所所長）
○演題：２０２０年度からの大学入試-大学入試改革の最新動向-
ＡＬ拠点校となって２年目、なぜ今ＡＬか、ということは教職員に周知徹底されてきました。改めて大学入試改革という視点からＡＬを考えてみようということで、代々木ゼミナールの佐藤氏をお招きして、職員研修を実施しました。高大接続改革に始まり、新しい入試制度の説明、その出題のねらい、そのためにＡＬが必要であるということを再認識しました。（もちろん入試が変わるからＡＬという安直な考えをしている先生方は誰もいませんが）特に英語の変更点について詳細に語っていただきました。新しい１年生が入ってきます。待ったなしの状況です。英語の指導はもちろんのこと、全ての教科において、今目の前にいる生徒たちのためになる学力を付けることを目的として、日々の教育活動を行っていくことを確認しました。（Ｎ．）

編集 | 削除 11:05 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2018/03/20 【ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ】全国高校国語教育研究連合会研究大会 | by:WebMaster

［大会名］全国高等学校国語教育研究連合会第５０回研究大会兵庫大会

［大会主題］
国語教師のアクティブ・ラ-ニング-主体的・対話的で深い学びの実現-
・主催　全国高等学校国語教育研究連合会兵庫県高等学校教育研究会国語部会
・後援　文部科学省兵庫県教育委員会神戸市教育委員会
兵庫県私立中学高等学校連合会兵庫県立学校長協会
兵庫県市立高等学校長会一般財団法人兵庫県学校厚生会

・期日　１１月１６日（木）・１７日（金）
・会場
（１日目）神戸芸術センタ-
（２日目）兵庫県立神戸高等学校
第１日
［オ-プニング］演舞：神戸市立兵庫商業・神戸市立神港橘高等学校龍獅團
［開会式・総会］
文部科学省講話：高等学校国語科における
「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
大滝一登氏（文部科学省初等中等教育局視学官）
［記念講演］
講演　　：「父、米朝を語る」桂米團治氏
落語披露：「一文笛」桂ざこば氏
［分科会］
第４分科会：「文学作品ｉｎアクティブラ-ニング」
たつみ都志氏（谷崎潤一郎研究者・小説家）
第２日
［第一分散会］兵庫県立神戸高等学校
公開授業
?１年国語総合・現代文「城の崎にて」大西ゆりか先生
?１年国語総合・漢文「雑説」荒木勝一郎先生
?２年現代文Ｂ「科学・技術と生活空間」磯貝祥史先生
?２年古典Ｂ「蜻蛉日記」中井一弘先生
研究発表
?「古作文に挑戦」坂田充範先生（兵庫県立加古川東高等学校）
?「グル-プ学習を活用した授業デザイン - 協働学習の視点から効果的なグル-プ活動を考える - 」上月さやこ先生（兵庫県立三田西陵高等学校）

全国高等学校国語教育連合会の全国大会がＡＬを大会主題として実施されるということで、ＡＬの勉強になればと参加させていただきました。１日目は文科省視学官の講演の後、落語を堪能しました。大滝視学官がいつも指摘される「国語は教材への依存度が高い。主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達授業に陥っている傾向がある」「教材の読み取りといったものが指導の中心になっている」という発言に、また自己の授業を振り返らされました。その後の落語では、ざこばさんの元気な姿を拝見し、うれしく思うとともに「言葉」というものの重みを感じました。２日目の分散会は神戸高校に伺わせていただきました。協働学習の視点から効果的なグル-プ活動がなされていました。従来型の漢文の授業の中にも生徒の主体的な活動があり、なるほどとうならされるＡＬとなっていました。日本を代表する進学校である神戸高校においても着実にＡＬ型授業に改善されています。国の動きも再確認でき、大変有意義な訪問となりました。２本の研究発表では、ＡＬのスタ-トにふさわしい地道な取組が紹介されました。本校にとって取り入れることの出来る手法も多くあり、早速試してみたいと思いました。（Ｎ．）

編集 | 削除　　10:40 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2018/03/06　【AL】「学びのイノベーション」フォーラム参加　　by:WebMaster

○　大会名
第５回記念「学びのイノベーション」フォーラム

○　開催日時１２月２日（土曜日）１０時３０分-１９時

○　開催場所政策研究大学院大学

○　日程
１　ワークショップ１０時３０分-１２時００分
「学校ぐるみのアクティブ・ラーニング」
岩手県立花巻北高等学　校下町壽男　先生
元京都精華大学　筒井洋一先生
Ｌｉｎｋ＆Ｃｒｅａｔ　福島毅　先生
山口県教育庁高校教育課　松嶋渉　先生
２　ランチカフェ／フリートーク１２時１０分-１２時５０分
「教科を越えた学び」
立命館宇治高等学校　酒井淳平　先生
静岡県立韮山高等学校　鈴木映司　先生
３　主催者挨拶１３時００分-１３時０５分
「教育イノベーションへの道」
早稲田大学研究・イノベーション学会前副会長　小林直人　先生
４　ネット対話１３時０５分-１３時３０分
「Zoom革命ネットで全国の先生を繋ぐ」
山口県教育庁高校教育課　松嶋渉　先生
Ｌｉｎｋ＆Ｃｒｅａｔ　福島毅　先生

立命館守山高等学校倉本龍先生
元京都精華大学　筒井洋一　先生
5　現場からの報告・提案１３時３０分-１５時５０分
（1）「ＩＣＴが拓く協同の学びと個人の学びの往還―復興支援からプログラミングまで―」
奈良女子大学附属中等教育学校　二田貴広　先生
（2）「ＩＣＴから教育の本質へ」
広尾学園中学校・高等学校　金子暁　先生
（3）「種蒔く校長としての３年間―ＡＬ指数・Ｒ８０・ＴＯ学習の考察―」
茨城県立並木中等教育学校　中島博司　先生
（4）「キャリア教育こそ高大接続の鍵-その１０年間の挑戦と変革-」
産業能率大学入試企画部長　林巧樹　先生
6　基調講演・クロストーク１６時００分-１６時５０分
「対話と共創が織りなす学びの地平-人と人をつなぐ、今と未来を結ぶ-」
金沢大学国際機関教育院高等教育開発・支援系　杉森公一　先生
福岡明光学園中学校・高等学校　前川修一　先生

研究イノベーション学会イノベーションフロンティア分科会教育イノベーションサブ分科会の主催する「学びのイノベーション」フォーラムに参加してきました。
午前中のワークショップでは、下町壽男先生を講師としてお招きし、参加者同士の対話を積極的に行うワークショップでした。また、ＩＣＴを活用した新たな対話として、会場における参加者のグループワークとともに、「Zoom」を通じてオンライン上でのグループワークも同時に行うハイブリッドワークショップに挑戦しました。子どもたちに主体性を投げかけること自体が、主体的ではないのではないかという問いについて考え、子供たちの中にある主体性を生かすために、教師や大人はどのような役割を担っていくべきなのかということを改めて見つめなおす必要性を感じました。また、学力をつけるための「社会化」とともに、生徒が主体性を持つ「主体化」にはアクティブ・ラーニングの手法をより高めていくことが効果的であると再確認しました。
午後、現場からの報告・提案では、広尾学園副校長の金子暁先生や並木中等教育学校高校の中島博司先生から、ICT教育の先進校の目指すところや学校を挙げたアクティブ・ラーニングの取組について、直接話を聞き、勉強することができました。
基調講演では、前半で金沢大学の杉森公一先生の講演、後半は明光学園の前川修一先生とのクロストークの形で講演をしていただきました。理想的な「まなび」とは何か考えるために、対話、コミュニケーションとは何なのか、どのようにして可能になるのか、と問うことから始まり、教育の場である学校において対話がどのように実現するのか考えることができました。
ワークショップだけでなく、複数の講演の中で「主体性」がキーワードとなっており、学校やまなびにおいて、生徒の主体性をどのようにして育てていくべきなのか、考えさせられたフォーラムでした。また、本フォーラムは、産業界の方々の参加も多く、産業界や社会全体から学校現場がどのように見えているのか、教育を通して未来にはばたく若者たちに何が期待されているのかということも感じることができました。学校、家庭、地域、企業、そのほか多くの社会がつながっていく中で主体性を持つということについて、意識を高めていこうと感じました。

編集 | 削除　09:18 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2018/03/06　【AL】産業能率大学アクティブフォーラム参加

| by:WebMaster

○　大会名
産業能率大学アクティブフォーラム「授業力向上フォーラム-授業の向上を考える-」

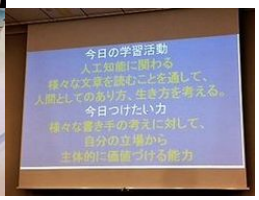
○　開催日時
８月２０日（日曜日）１１時-１８時

○　開催場所
グランフロント大阪ナレッジキャピタル

○　日程
1　講演１１時０５分-１２時０５分
筒井ラーニングＬａｂ合同会社代表／元京都精華大学人文学部教授筒井洋一先生
「主体的な学びとは何か-学びの中のリーダーシップとは-」
2　ＡＬ授業体験＆授業研究会１３時０５分-１４時４５分
＜国語＞福井県立若狭高等学校教諭渡邉久暢先生
3　事例研究・ＡＬ授業体験＆授業研究会１５時００分-１６時４０分
＜地理総合＞神戸大学附属中等教育学校教諭高木優先生
4　講演１６時５５分-１７時５５分
京都大学大学院教育学研究科准教授石井英真先生
「今求められる学力とその指導・評価」

産業能率大学の今年のキャリア教育推進フォーラム、第２弾の「授業力向上フォーラム」に参加してきました。
筒井ラーニングLab代表の筒井洋一先生の講演では、“教師ががんばる授業（知識習得型・講義型の授業）”から“生徒ががんばる授業（正解のない問いを考え、双方向性の授業）”への転換が迫られており、授業者には、“教える”だけでなく“場を創る”という役割が求められるようになるだろうということを再確認できました。また、学校における授業も積極的にオープンにし、参観者には、教員がどういう授業をしているのかという視点ではなく、グループワークに参加してみたり、生徒の意見や動きを直接見たりする「生徒の学びの同伴者」となる視点を提案され、その実践から学ぶことができました。また、ワークショップでは、ベネッセとクリエイティブシフトにより共同開発されたALP（アクティブ・ラーニングのためのパターン・ランゲージ《教師編》）を体験できたほか、哲学おしゃべりカードなどの教材も紹介していただきました。
AL授業体験＆授業研究会では、渡邉久暢先生の国語において、「AI」をテーマに自己の考え・意見と他者の考え・意見の両方を問う新テストを想定した課題に取り組む授業を体験することができました。高木優先生の地理総合では、地理の学習内容から総合的に考える主題学習

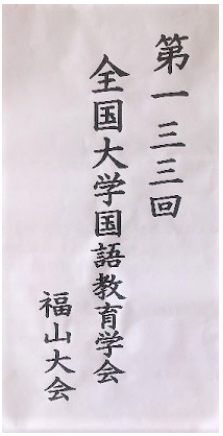
を体験し、個人思考とグループ学習の狙いの違いや評価の観点、学習のまとめについて、話し合い、考えることができました。
　京都大学の石井英真先生の講演では、新しい学力観とその評価について話していただきました。すでにアクティブ・ラーニングの実践が全国で取り組まれているが、「授業がアクティブか？」という視点で単なる活動主義に陥ってしまっている事例も少なくないことを挙げられ、「授業が教科の目的に向かっているか？教科を通じて生徒が成長しているか？」という視点から考えなおす必要性を感じました。そのために、何を教えるのかという内容ベースから、何ができるようになるのかというコンピテンシー・ベースで授業を設計していくことが大切であると学びました。
　今回のフォーラムは、授業力向上フォーラムということで、各教科におけるＡＬ授業体験＆授業研究会が実施され、様々な教科の先生方が参加されていました。専門の違う先生方と協力し合いながら、ワークショップやグループ学習を進めることで、授業の展開・進め方だけでなく、教科の学習内容についても、多くの気づきが得られる研究会でした。



編集 | 削除　　09:10 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2018/03/05　【AL】第１３３回　全国大学国語教育学会　福山大会　　by:WebMaster

○日時１１月４日（土）・５日（日）
○会場福山市立大学港町キャンパス
○後援広島県教育委員会福山市教育委員会
○日程
４日（土）
８：４５-９：３０受付
９：３０-１２：４０自由研究発表
１２：５０-１３：５０昼食
１４：００-１５：００総会
１５：１０-１７：３０シンポジウム
５日（日）
９：００-９：３０受付
９：３０-１２：００課題研究発表
１２：１０-１２：５０昼食
１３：００-１６：４０ラウンドテーブル

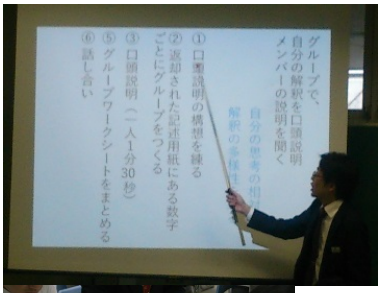


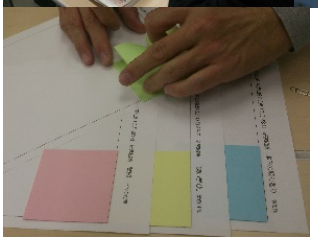
　今年の秋の学会が福山で開催されるというので福山市立大学まで出かけて行きました。多様な研究発表の中にもＡＬ関係があり、学会発表にまで「深い学び」が登場していることに驚きました。国際バカロレアの研究発表も数本有り、探究学習として、やはりこれからバカロレア入試も注目されていくのだろうと改めて感じました。ラウンドテーブルでは「文学国語」という科目の設置を前に「文学国語」でどのような資質・能力が身に付くのかということが議論されました。久々に文学の世界に浸りました。（Ｎ．）

2018/02/06　【AL】桐蔭学園　アクティブラーニング公開研究会２０１７　by:WebMaster

○開催日時　１０月２８日（土）１３：００－１７：２０
○開催場所　神奈川県　桐蔭学園
○日　　程
　１．公開授業
　　１３：００－１３：０５　授業のねらい説明
　　１３：１５－１４：０５　授業
　　１４：０５－１４：１５
　２．ワークショップ（授業後の研究協議）
　　１４：２５－１５：１０
　３．講演会
　　（１）主催者挨拶　１５：３０－１５：３５
　　桐蔭学園　理事長　平岩敬一
　　（２）講演　１５：３５－１６：３５
　　児美川孝一郎（法政大学　教授）
　　「キャリア教育は、どこまでアクティブラーニングと出会うのか？
　　?これまでの点検から、新たな創造へ?」
　　（３）報告　１６：３５－１７：００
　　福田周作（桐蔭学園　教諭）
　　（４）質疑応答　１７：００－１７：１５
　　（５）閉会の挨拶　１７：１５－１７：２０
　　桐蔭学園　中学校・高等学校・中等教育学校　校長　岡田直哉

京都大学の溝上慎一先生とお会いする度に「桐蔭来て下さい」と言われていた学校。２月には桐蔭の佐藤先生にお会いしてその熱い想いを伺っていただけに今回の訪問は待ちに待った感満載の訪問となりました。名簿を見てみますと、本県からの参加者もちらほら。その注目度の高さが伺えます。まずは都会の私立とあってその規模の大きさに圧倒されました。教職員だけで３００名以上在籍されているそうです。１１の公開授業の中から私は石川達也教諭の「『山月記』を読む」（中等４年）に参加しました。最初に我々に対して授業のねらい説明がありました。今回は「読みの相対化」と「思考の多様性を知る」をねらいとして授業デザインされたそうです。授業が始まり、冒頭に「本時の目標」を確認し、「今日の授業では何を学ぶのか」を明確にします。自分の解釈を他者に説明するというのがこの時間のメインです。グループに分かれて説明し合います。ディスコミュニケーションの確認がなされます。「自分へのツッコミ」という活動で自分の解釈が相対化されます。より高次な学びに達する仕掛けです。ここでもう一度最初の目標を提示し、「ふり返り」を行います。この振り返りシートは先生方が改良に改良を重ねられているそうです。何度も言われていることですが「個」→「協働」→「個」というＡＬの基本システムがきっちりと回っています。公開授業の後には、ワークショップを行いました。参加者が、「授業でよいと思ったところ」「深い学びについて」「授業担当者への質問」「振り返り」を色の異なる付箋に書き出し、グループで協議していきました。ここでもＡＬの手法により、我々個人に協働が落とし込まれました。公開授業終了後、シンフォニーホール（すごく立派な会場でした）に移動し、法政大学の児美川先生による講演がありました。教育改革の背景に始まり、学校におけるキャリア教育の役割とその進め方について、アクティブラーニングとの関係性に触れながら解説をされました。質疑応答、溝上先生とのやりとりも学術的で勉強になりました。また、「アクティブラーニング推進3年目の目標とこれまでの歩み」と題して福田先生から桐蔭のアクティブラーニング型授業への取り組みの報告がなされ、今後の展望と課題について参加者全員で共有しました。その後、場所を食堂（と言っても、立派なホールです）に移動し懇親会が行われ、教育顧問・溝上先生始め、桐蔭の先生方とＡＬについて様々な話をして交流を深めました。ただただその施設・設備の立派さに圧倒されっぱなしでしたが、やっていることは教育。同じ教育者、それもＡＬという手法で未来を切り拓く生徒たちを育成する（桐蔭の先生は「日本を世界を変える」とおっしゃっていましたが）という使命を担っている者同士、これからも切磋琢磨しながら本校の教育活動に邁進しようと決意も新たに横浜の地を後にしました。（Ｎ．）





2018/02/01　【AL】H29学校訪問　八幡浜高校報告

| by:WebMaster

「教」から「育」へー主体的・対話的な深い学びの実践ー
・日時　１０月２７日（金）８：１０ー１４：４５
・会場　愛媛県立八幡浜高等学校
・日程
8:10ー 9:00　受付
8:25ー 8:35　朝読書
8:35ー 8:45 ショートホームルーム
8:50ー 9:00 清掃
9:15ー10:05　第１時限（授業参観）
10:20ー11:10　第２時限（授業参観）
11:25ー12:15　第３時限（ホームルーム活動参観）
12:15ー13:15 昼食・施設見学
13:15ー14:45　分科会

今年度も県から指定されているＡＬ拠点校の一つ、八幡浜高校で学校訪問が開催されるというので、行かせてもらいました。第１時限と第２時限すべての授業を参観させていただきました。どの授業も全面的にＡＬの手法を取り入れ、生徒の主体性を促していました。生徒たちからは自己肯定感の充実が推察されました。人前でしゃべる、他者に自己の意見を述べる。これらは研究指定校になったからというよりも低学年からの指導がしっかりとなされていることの証左だと感じました。その時間で学ぶことが明確化されており、いわゆる今の目の前の生徒たちに付けたい力が分かる授業展開がなされていました。ＩＣＴも有効に活用されており、道具を使いこなしている印象を受けました。同じ県立高校として見習うべきところの多い学校訪問となりました。八幡浜高校の皆さんありがとうございました。（Ｎ．）

編集 | 削除

16:33 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

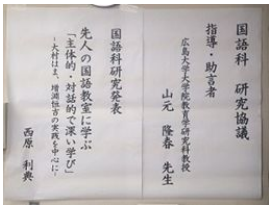
2018/01/31 【AL】平成２９年度　教育研究大会（広島大学附属中・高等学校）

by:WebMaster

平成２９年度　教育研究大会（広島大学附属中・高等学校）
主題　次期学習指導要領に向けたアクティブ・ラーニングの展開
　　-「見方・考え方」を働かせた「深い学び」を実現する授業の追究-

○期　日　　１０月１４日（土）
○会　場　　広島大学附属中・高等学校
○主　催　　広島大学附属中・高等学校　中等教育研究会
○後　援　　広島県教育委員会　広島市教育委員会

　広島大学附属中・高等学校では、昨年度から、教育研究大会のテーマに「次期学習指導要領に向けたアクティブ・ラーニングの展開」を掲げ、３カ年にわたる教育実践研究を開始しました。最終年に行きたいと思っていたのですが、溝上先生から紹介されていたディープラーニングで著名な松下佳代先生（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）の講演があるというので出かけていきました。演題も「なぜ『深さ』が重要なのか」。「深い学び」という言葉に対する認識は教員によってまちまちの感があります。先生は、教科の固有性と教科を超えた汎用性といった一見相対立するものを結びつける要が「深さ」だと述べられました。先生の考える「深い学び」の一端に触れることができました。
　授業は中３泉陽子教諭と高１加藤健伍教諭の国語科を参観しました。ＡＬの中でも対話ということに焦点を当てた授業でした。西原利典教諭の研究発表は大村はまと増淵恒吉の実践を中心に、ＡＬと単元学習の共通項を見事に整理されていました。生徒の能力を存分に引き出す授業デザインがなされており、流れるようでいて、じっくり考えさせる素晴らしい授業を見せていただきました。３カ年計画の最終年、来年も伺いたいと切に思わされた1日でした。



（Ｎ．）

編集 | 削除

17:28 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2018/01/10 【AL】アクティブ・ラーニングについての模擬授業並びに講演会

by:WebMaster

○開催日時　平成２９年度９月１１日（月）１４：３５-１６：３５
○開催場所　愛媛県立今治西高等学校　体育館
○講　　師　東進衛星予備校　英語講師　安河内　哲也　先生
　　演題　「教師ではなく生徒の頭と口が動く４技能活動型英語授業」

　今治ブロックのＡＬ拠点校である今治西高校で安河内先生の模擬授業と講演会があるというので参加させていただきました。２年生対象の授業を参観。本当に日本人は英語をしゃべる表現が苦手か。そうではない、授業のデザインによる、というお手本のような授業でした。生徒は活発に自己の内面を吐露していきます。まずしゃべること。ＡＬの基本がここにあると考えさせられました。続いて、講演会とありましたが、その実際は教員同士によるワークショップでした。私は英語の教員ではないので、多数の英語教員に混じってのペア活動に冷や汗ものでした。お互い平行に立つ、握手する、相手を褒める・・・。ここでもＡＬの基本中の基本をレッスンされました。県立高校主催のイベントに塾講師を招聘する。またそこに私立高校の先生方の姿も見える。本県のＡＬが本格化してきている様を感じた１日でもあります。（Ｎ．）

編集 | 削除　09:52 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2018/01/09　【AL】高校生ＡＬ推進事業松山Ｃグループ公開授業（Ａ班）　by:WebMaster

○開催日時　８月３０日（水）１３：００-１６：３０
○開催場所　本校（愛媛県立伊予高等学校）
○公開授業　古典Ｂ　地理Ｂ　数学１
※地理歴史の授業公開は平成２９年度県立学校ＩＣＴ教育推進事業の授業公開を兼ねる。

　松山Ｃブロックの拠点校である本校において、公開授業（Ａ班）が行われました。昨年度に引き続きブロック校の各校から多くの先生方に参観いただきました。また、ブロック校以外の松山南、三瓶、川之石といった高校からも参観いただき、ご意見をいただけました。今年度は地元松前町にもお声がけしたところ町内の各中学校からも参加いただき、先進校訪問報告始め、中学校も含めた有意義な情報交換会が行われました。
（Ｎ．）

編集 | 削除　15:05 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2018/01/05　【AL】産業能率大学教育改革推進フォーラム報告　by:WebMaster

　教育改革推進フォーラム　- 教育の力を全ての教員と生徒に -
　教育の持つ本質的な力を問い学校や授業はどうあるべきかを考える
・開催日時　８月２７日（日）１１：０５-１８：００
・開催場所　熊本大学　教育学部
・主　　催　産業能率大学
・後　　援　熊本県教育委員会　福岡県教育委員会　大分県教育委員会
　　佐賀県教育委員会　長崎県教育委員会　宮崎県教育委員会
　　鹿児島県教育委員会

　今年の産能大フォーラムは東京・自由が丘、大阪、熊本開催でした。ＡＬチームくまもとが熱烈なオファーを送り、地方開催にこぎ着けたこともあり、熊本の熱気を感じるべく熊本まで出かけていきました。ＡＬくまもとの熱い想いによる実施だけあり、地元の教育にかける思いや全国各地の地熱を肌で感じることができました。

○Ｓｅｓｓｉｏｎ１　１１：０５-１２：０５　【講演】
　「育てたい生徒像に基づく学校改革」
　　下町 壽男 先生（岩手県立花巻北高等学校　校長）

○１２：０５-１３：００　昼食

○Ｓｅｓｓｉｏｎ２　１３：００-１４：４０
　「ＡＬ授業体験＆授業研究会」
　　現代文　渡邉 久暢 先生（福井県立若狭高等学校）

○Ｓｅｓｓｉｏｎ３　１５：００-１６：４０
　　古文　佐々木 宏 先生（東京都立日野台高等学校）

○Ｓｅｓｓｉｏｎ４　１７：００-１８：００
　【インタビュー形式による講演】
　　「教育の力を考える」
　　苫野 一徳 先生（熊本大学 教育学部 准教授）

　下町先生の講演。学校改革実現のための具体策を教えていただきました。導入で用いられた「Ａｌｉｋｅ　Ｓｈｏｒｔ　Ｆｉｌｍ」。感動するものでした。ＹｏｕＴｕｂｅで見えますので是非ご覧下さい。ＡＬ授業は２本とも国語を体験しました。1年ぶりの渡邉先生の授業。相変わらず生徒の思考を邪魔しないようにデザインされたものです。ネタはＡＩ。ここ最近の頻出テーマです。ＰＰの一枚のシート。「授業の活動デザインは、付けたい力に応じて決める。私の仕事は、生徒をよく見ること」分かりきっていることですが、改めてシートで見せられると、背筋がピンと伸びきりました。今自分の目の前の生徒にこうなって欲しいと常に考えなが

ら授業デザインしていきたい。映画の助監督をされたり、ユニークなキャリアの持ち主の佐々木先生の授業には前々から興味がありました。内容は『枕草子』有名な第９８段。会話を脚本化し、その脚本をもとに場面を再現しました。グループのうち一人を脚本家とし、他者に指示する。全体像が分かっていないと再現できないように工夫されていました。自校でもやってみたい活動です。最後は苫野先生の講演。哲学者ということで、ものごとの「本質」とは何かという話から始まりました。先生は「すべての子どもたちが自由に生きたいように生きられる力を育むこと」が教育の本質だと述べ、しかしながら、それはわがままとは違う。相互承認が必要である、そのためにはＡＬは非常に有効な手段となると結論づけられました。私自身勉強不足でしたので、その後先生の著書を拝読しました。哲学という視点から教育を見る新しい知見を得ました。

日本各地で先生方が地道な実践をされている様子、そしてその情報を交換できる場を提供していただいた産能大学には感謝しきれない思いです。熊本城、そして熊本復興のさなか、ＡＬくまもとの活動を目の当たりにして、元気をもらうとともに、やらねばという熱い闘志に火を付けて帰松しました。

（Ｎ．）

編集 | 削除　　09:44 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2018/01/05　【AL】くまもと８月学習会報告

by:WebMaster

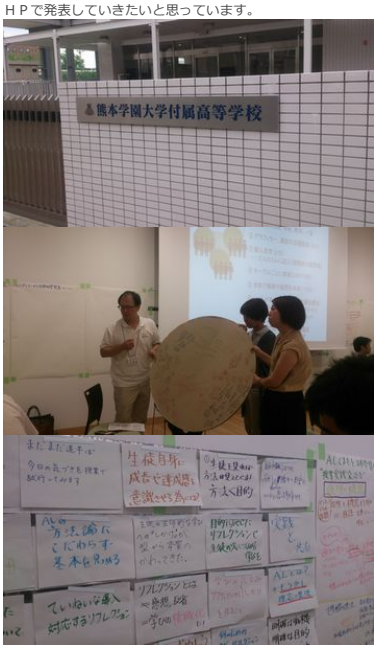
<タイトル>【AL】くまもと８月学習会報告

<本文>
・開催日時　８月２６日（土）１５：００-１８：００
・開催場所　熊本学園大学付属高校多目的ホール

現在日本各地にＡＬのグループが誕生し、様々な活動をしています。チーム○○と名の付く勉強集団が多数。なかでも個人的に一番勢いがあると思っているのが「チーム熊本」。勉強会や講演会、九州の、いや、日本のＡＬを牽引しているチームです。産業能率大学のフォーラムを次の日に控え、全国から実践者が集まって来ている機会を捉えて、勉強会を実施するというので、参加してきました。

ワールドカフェ形式の上質のワークショップを経験しました。みんなが思ったことを自由に書いていく「えんたくんシート」使用も初めて経験しました。いろいろなことに最先端の手法が用いられ、自身の無知ぶりを実感しました。何度も実施することで洗練されていくという感じです。これは生徒の表現力育成でも言えることです。私自身が繰り返すことで慣れていくという必要性を感じました。

ちなみに我々本校数名の教員と松山市内の高等学校教員数名で「ＡＬチーム松山」を立ち上げました。遅々とした歩みですが、地味な勉強会を進めています。また、そこでの成果もこのＨＰで発表していきたいと思っています。



編集 | 削除　　09:41 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2017/12/12　【AL】アクティブ・ラーニングに係る講演会

by:WebMaster

○日　時　８月１８日（金）１５：００-１６：３０
○場　所　本校　会議室
○講　師　前 山口県立萩商工高等学校　情報デザイン科　教諭（商業）
　　平成２８年度文部科学大臣優秀教職員（地域連携）
　　松嶋　渉　先生
○演　題　「いま何故アクティブ・ラーニングが必要とされているのか？」

夏季休業中に合わせて外部講師を招いてのＡＬ研修会（グループ校の先生方も参加）を計画しました。頭に浮かんだのが山口の松嶋先生。松嶋先生はＩＣＴ始め、地域協働がご専門です。ＩＣＴ研究の指定校であり、地域イノベーションコースを立ち上げた本校にとって、まさにうってつけの人物です。連絡すると「いいですよ」と二つ返事。よく聴いた後で、自分を語るというＡＬ型授業を実際体験し、楽しく語り合いました。「あなたはどんな人と一緒に働きたいですか。生徒たちにどんな大人になってもらいたいですか。そのための教育が行われてい

ますか」と授業は始まりました。そして最後は、「アクティブ・ラーニングは、時代の要請ではあるが、それが目的ではない」「学力はもちろん大事だが、『テストの点数を上げる学力』を上げることだけを目的にアクティブ・ラーニングを行うのではない」「アクティブ・ラーニングは型ではない」と改めてＡＬについて、我々に示唆を与えていただきました。
　最後は質疑応答に始まり、先生自らが職員の中に入っての談話。ＡＬに対する実情や悩みを共有していただきました。昨年度は広島の才木先生からＡＬの基礎基本を教わり、今年度は松嶋先生から実践を教わりました。ＡＬ推進事業２年目の今年度、我々教職員の意識改革も進み、授業も日に日に改善してきています。今後も今回の講演会を参考にしながら生徒の主体的な学習活動を促していきたいと思います。
　松嶋先生わざわざお出でいただき、本当にありがとうございました。

編集 | 削除　　09:25 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2017/11/15　**【AL】香川メディア教育研究会　報告**　| by:WebMaster

D-ｐｒｏｊｅｃｔ香川　メディア教育研究会　夏季セミナー
　　-主体的・対話的で深い学びを実現する授業デザイン-
・日時　８月１２日（土）９：００-１７：００
・場所　サンポートホール　第２小ホール　e?とびあかがわ
・主催　D-ｐｒｏｊｅｃｔ香川　香川メディア教育研究会
・後援　香川県教育委員会
　　丸亀市教育委員会　高松市教育委員会　観音寺市教育委員会
　　三豊市教育委員会　坂出市教育委員会
　　香川メディア教育連絡協議会

プログラム
　９：００-　受付
　９：３０-　オープニング
　９：４０-　基調講演
　　放送大学教授　中川一史　先生
１０：３０-　特別講演
　　ＮＨＫ放送文化研究所　宇治橋祐之　先生
１１：３０-　実践発表
　　丸亀市立岡田小学校　秋山慎吾　先生
　　坂出市立瀬居小学校　渡邊　慧　先生
１２：００-　休憩・昼食
　　協賛・出典企業様の展示コーナーをご覧ください。
１３：００-　ワークショップ１
１４：２０-　ワークショップ２
１６：１５-　パネルディスカッション
　コーディネーター　金沢星稜大学　佐藤幸江　先生
　パネリスト　北海道北広島市立双葉小学校　加藤悦雄　先生
　　高松市総合教育センター　指導主事　河田祥司先生
　　丸亀市立郡家小学校　増井泰弘　先生
１７：００-　クロージング
１８：３０-　情報交換会・懇親会

　新学習指導要領が公示され、全面実施に向けて今まさに周知徹底の時期に来ています。そうした中、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（ＡＬの視点に立った授業改善）を推進することが求められています。D?ｐｒｏｊｅｃｔは、ＩＣＴの活用によって、主体的・対話的で深い学びを実現する授業デザインを考えている組織です。昨年、丸亀開催のセミナーに参加して勉強になったため、今年度も開催場所、高松におじゃましました。放送大学中川先生の基調講演の後、ＮＨＫ宇治橋先生の特別講演。過日、本校で「ＮＨＫ　ｆｏｒ　Ｓｃｈｏｏｌ」の研修会があったところなので、余計に「これも使えるな」などと考えながら拝聴しました。実践発表の後、それぞれのワークショップに分かれてＩＣＴの活用方法を学んでいきました。私は、「ＳＫＹＭＥＮＵ」と「ｌｉｔｔｌｅＢｉｔｓ」のワークショップを体験しました。ＩＣＴに疎い私は、見よう見まねで四苦八苦しながら取り組みました。最後はパネルディスカッションから金沢星稜大学佐藤先生のクロージングに続いて行きました。教育センター河田先生の「気づく（ずれの感知）」という言葉が印象に残っています。どう比較できるようにしていくか。比較は自己を知る（メタ認知）最初の方法だと思っています。生徒たちにウィークポイントだけでなくストロングポイントをどう気づかせるか。それがひいては自尊感情につながっていく。またその授業設計を考えていきたいと思わされました。その後の情報交

換会・懇親会でも多くの先生方と活発な意見交換ができました。昨年に引き続き今回も義務教育の現状も本校へ持ち帰ることができました。

編集 | 削除　19:39 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2017/11/15　【AL】教育改革先取り対応セミナー報告

by:WebMaster

・開催日時　８月８日（火）１３：００-１７：３０
・開催場所　ホテルセンチュリー２１広島
・主　　催　日本教育新聞社／株式会社ナガセ（東進ハイスクール、東進衛生予備校）

「大学入学共通テスト（仮称）」の概要、モデル問題例公表を受け、高校授業改革に焦点を当てた夏の教育セミナーが今夏も全国12会場で開催されました。（広島会場に参加）高大接続改革をテーマに開催されて４年目。文科省関係者などから大学入試を含む高大接続改革の進捗状況を伺えたのは例年通りでしたが、現場の教員を講師にモデル問題例に対応する授業改善の方法が学べたのは収穫でした。

○全体会
１３：００-１３：２０
主催者挨拶
（株）ナガセ　常務取締役　加藤　伸　様
（株）日本教育新聞社　取締役広報局長　下崎　邦明　様
来賓挨拶
広島県教育委員会　教育長　下崎　邦明　様
【名代】広島県教育委員会高校教育指導課
教育指導監　小野　裕之　様
１３：２０-１４：２０
特別講演１「高大接続改革の動向について」
文部科学省　高等教育局大学振興課大学入試室
室長　山田　泰造　様
１４：３０-１５：３０
特別講演２「大学入学共通テスト　問題解説」
英語　安河内　哲也　先生
東進ハイスクール、東進ビジネススクール英語講師
文部科学省「英語教育の在り方に関する有識者会議」委員
国語　滝井　隆太　先生
宮城県立第三高等学校　教諭
数学　岩佐　純巨　先生
鈴鹿中等教育学校　特命講師　授業力向上推進部長
１５：３０-１５：４５
特別講演３「トビタテ！留学ＪＡＰＡＮの概要」
文部科学省　官民協働海外留学創出プロジェクト
トビタテ！留学ＪＡＰＡＮ　日本代表プログラム
【高校生コース　担当リーダー】　水口　貴之　様
○分科会
１６：００-１７：３０
教科別分科会
英語　安河内　哲也　先生
数学　岩佐　純巨　先生
国語　滝井　隆太　先生

全体会では、英語の外部検定試験活用を始め、ＡＯ入試・推薦入試などの大学入学者選抜改革を詳細に知ることができました。分科会は国語に参加しました。滝井先生は、「推論による構造化」に焦点を当てて、模擬授業と実践演習を展開されました。これからの授業では「授業者はデザイナー」であることが重要とした上で、短歌を使った問いのデザイン、評論文を使った構成・形態のデザインの在り方を考えることができました。その後、意見交換会があり、他県の先生方とも情報交換することができました。

編集 | 削除　10:25 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2017/11/10　【AL】平成29年度（第12回）松山市小学校情報教育研修会

by:WebMaster

「共に創ろう！」これからの情報教育
- 子どもたちの「生きる力」を育てるために -

・日時　８月２日（水）９：３０ - １６：３０
・場所　全 体 会：愛媛大学　南加記念ホール
分科会Ｅ：松山市立東雲小学校　パソコンルーム
・主催　松山市教育委員会　松山市小学校情報教育研究委員会
・共催　愛媛大学教育学部　デジタル表現研究会（D?ｐｒｏｊｅｃｔ）

松山市内の小学校では、２学期からタブレットパソコンが全校に導入されるのだそうです。無線ＬＡＮの環境も少しずつ構築され、活用についての実践研究が進んでいるようです。お誘

いを受けたのでＡＬの参考になればと出かけていきました。全体会では松山市立姫山小学校の菅野史章先生と久万高原町立明神小学校の中野圭一郎先生から事例発表がありました。何でもそうですが、全教職員で取り組む必要性を改めて感じました。その後、「新学習指導要領にＩＣＴはどう寄与できるか？」と題して茨城大学小林祐紀先生、岩美町立岩美中学校岩崎有朋先生、ＮＨＫ放送文化研究所主任研究員宇治橋祐之先生、松山市立椿小学校石田年保先生らによるパネルディスカッションがありました。石田先生の「ＩＣＴを○○する道具と命名する」という提言には、そう考えると本当に敷居が低くなるなあと思いながら聞かせてもらいました。分科会は「教室１台タブレット活用術」という会に参加させてもらいました。流石に小学校の先生方は子どもを惹きつけるようなものを作るのが上手で感心させられました。
　ＡＬとＩＣＴ活用は切り離せません。生徒の主体的な学習にいかに効果的に活用できるかを今後も考えていきたいと思います。

編集 | 削除　　16:18 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2017/10/23　【アクティブ・ラーニング】グループ校との合同学習会　　by:WebMaster

・開催日時　７月２８日（金）１３：００-１６：２０
・開催場所　本校　各教室

　本校は松山Ｃグループの拠点校となっております。グループ校、松山中央・上浮穴・小田・伊予農業と本校を含めた五校で夏休み期間を利用してグループディスカッションの対策・練習を行いました。当日は、参加生徒たちを希望により看護系と地域創生系に分け、またそれをそれぞれ８名程度の班に分け、総勢１２５名の参加で実施しました。各班には先生方に付いてもらい、指導助言をしていただきました。昨年同様、他校生徒とのディスカッションに最初は戸惑っていた生徒たちも、次第に積極的に発言を始めました。今後の進路実現にいい刺激になっていたようです。以下に生徒の感想（振り返り）を数点載せます。

○すごく難しくて全然できなかったけど、自分がもっと知識を付けて参加すればグループディスカッションも苦に思わないだろうなと思いました。大学で使わなくても仕事の場などでいつかこういう話し合いが必要になって自分が参加することもあると思うので、機会があればまたやりたいです。（松山中央・女子）
○とても緊張した。自分の意見がうまく言えなくて、そして次の人にパスが出せず、話が続かなかった。だから、もっと話が広がるように、自分から相手の意見を聞いて話を広げるようにしたい。司会ができるようになりたい。（松山中央・女子）
○なかなか他校の人とグループディスカッションをする機会はないので、今回参加できて、とてもいい経験になった。人の意見を聞いていると、こんな意見もあるんだなと勉強になった。いつも一方向からでしか意見を言えないので、他の視点を持って話せるようになりたいと思った。（上浮穴・女子）
○学校の教室と少し環境が変わっただけで緊張して、初めは声が震えていた。自分から進んで意見を出すことができなかったので、もっと練習したい。グループディスカッションがどんなものか、自分の力がどれだけか知れて良かった。（上浮穴・女子）
○考えていた以上に自分自身が集団討論で意見が出せないことに気づいた。自分の思ったことをどんどん出して、様々な内容に広げていき、無言の状態がないようにすることが大切だと感じた。（小田・男子）
○他の人の意見を聞いて、自分の中で固まっていたことだけじゃなく、他にもいろいろな考えがあると知れたので、とても有意義な時間になりました。他校の人と関わることができ、楽しかったです。また、機会があればやってみたいと思いました。（小田・男子）
○今日参加して本当によかったです。初めてが本番だったら、本当に終わってました。今日学んだことを生かして、がんばります。（伊予農・女子）

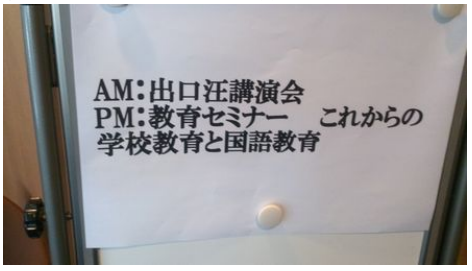
○３つの題についてディスカッションしましたが、いろんなことについて、まず知識がないと何のアイデアも意見も生まれてこないことが分かりました。日頃の身近な言葉、近年流行の言葉などをなんとなく聞いていては、グループ内で意見を述べられないので、もっと日々知ろうとする気持ちを持っていきたいです。あと、大会に出たとか、文献を読んだとか、人とは違う経験や知識があればグループの中で目にとまる一人になれるなと思いました。（伊予農・女子）
○数人の人たちと討論して、さまざまな考え方を学びました。自分にはない考えや意見に納得することが多く、とても良い機会だと感じました。言葉で伝えることの難しさや知識の幅を広げたり、さまざまな視点を持つことの大切さを学ぶことができたりしました。放課後、友達と集まって、同じようなことをしたいと思いました。（伊予・男子）
○マスメディアから入ってくる様々な情報に対してもっと興味を持ったり、学校の授業における先生の質問の仕方などを見たりして、グループディスカッションの力を付けていこうと思いました。また、学校だけでなく地域で、そういう活動があれば積極的に参加しようと思いました。（伊予・男子）
　以上、おおむね良い印象を持って、学習会を終えたようです。これから推薦入試本番に突入します。今夏の経験が、僅かながらでも、参加生徒のみなさんに寄与できていることを願います。かんばれ、受験生。

編集 | 削除　　07:00 | 投票する | 投票数(1) | コメント(0)

2017/10/19　【アクティブ・ラーニング】セミナー紹介　| by:WebMaster

教育セミナー
　2020年度の新入試・学習指導要領の改訂に向けて
○主　　催　（株）水王舎
○開催日時　７月９日（日）１４：００?１７：１５
○開催場所　ひめぎんホール

　文科省が今回の改革を打ち出した経緯や、具体的にどのような学力を育成すればよいのか、等について広島女学院大学の客員教授であり教育プロデューサーでもある出口汪先生のセミナーに出かけました。松山初開催とあって会場は多くの先生で埋め尽くされていました。なぜ今教育改革か。大きく分けて二つ。世の中が必要とする学力の変化と少子化を挙げておられました。今ほど「教える」ことが最も困難な時代はない。しかし、だからこそ面白い時代だと述べられました。この問題山積の時代に教育に携われる喜びを改めて感じました。第２部では、開智高等学校の加藤克巳先生から論理的に考える授業の実践報告がありました。本校でも生徒たちに一生使える論理力を身に付けさせようとあの手この手で授業を展開しています。今後の授業にも参考になる点が多くありました。大変勉強になった一日でした。



編集 | 削除　　20:10 | 投票する | 投票数(2) | コメント(0)

2017/10/19　【アクティブ・ラーニング】講演紹介　| by:WebMaster

　昨年度２月１７日に本校の教職員に向けて、また松前町役場では町職員の方々に向けて、本校の新コース、地域イノベーションコースについて講演していただいた浦崎太郎先生（当時・岐阜県立可児高等学校教諭、現・大正大学地域構想研究所教授）が、７月１９日（水）の八幡浜での講演のため来県されました。先生には、２月以来応援団として本校を支援していただいております。講演前日の１８日（火）、「あれから伊予高の様子が気になって・・・」とわざわざ本校に立ち寄っていただきました。これから生徒に必要とされる課題発見、課題解決の方法は地域にこそある。ＡＬとはまさに地域で身に付くとの観点から本校のＡＬに多くの示唆をいただいております。奇しくも当日は新コースに該当する１年生が、地域での職場体験を明日に控えた日でした。「話しますよ」ということで１年生を前にお話をしていただけました。
「中学校の時のインターンシップと今回の職場体験は違う。事前事後が大切です。そこで何を発見するか、その問題にどう対処すればいいか等々、それらを学ぶのです」
　私自身この僥倖に感激した一日でした。

編集 | 削除　　20:03 | 投票する | 投票数(2) | コメント(0)

2017/09/26　**【アクティブ・ラーニング】講演会紹介**　| by:WebMaster

菊池省三講演会「言葉と態度が人を育てる」

- 開催日時　４月２３日（日）１４：００-１７：００
- 開催場所　愛媛大学　グリーンホール

NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」や日本テレビ系「世界一受けたい授業」等々多くのメディアでも取り上げられている菊池先生の講演会に行ってきました。ALの決まり文句、「主体的・対話的で深い学び」。この言葉はそのうちにバブル化すると先生は述べられます。そもそも主体的とは何か。主体性を発揮させるとは。授業を参観して、生徒が能動的に動いていると一見主体的に見える。しかし、その中で本当に我々は生徒全員に目を配れているか。主体的とは生徒が動き回ることではなく、「一人も見捨てない」ということだと述べられました。生徒を一人も見捨てないことが生徒中心の授業であり、それこそが生徒の主体性が発揮されているということではないかと。

続いて、高松市立十河小学校の納田健太先生、高知県いの町教育委員会の乾孝治先生の講演会があり、それぞれの取組が発表されました。菊池先生は現在年間200の講演、授業をこなしながら、1年の多くを高知県いの町に教育特使として居住されています。地域再生、町おこしと聞くと特産物やスポーツ、箱物建造などを思い浮かべますが、いの町は「教育による町おこし」というユニークな取組を始め、菊池先生をそのメインに招聘されたのです。講演会後の懇親会で伺ったのですが、何と、来春からは先生に教員として登板してもらう計画だそうです。町のある小学校のクラス担任として復帰されるそうです。実践者として頭が下がる思いです。

菊池先生はその名字からもお分かりかと思いますが、愛媛県南予のご出身です。いの町でもいろいろなイベントが開催されます。興味を持たれた方は、いの町のHPをのぞいてみてください。画面冒頭に先生の情報が出てきます。9月9日（土）にも実際の授業が参観できました。私は行けませんでしたが、今後も折を見て参観したいと思っています。

（Ｎ．）

編集 | 削除　　13:42 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2017/08/31　**【アクティブ・ラーニング】鳥取城北高校報告**　| by:WebMaster

クリックしていただくとご覧になれます。

鳥取城北高校報告.pdf

編集 | 削除　　18:25 | 投票する | 投票数(1) | コメント(0)

2017/02/10　**【アクティブ・ラーニング】広島で開催されたAL型授業研究会**　| by:WebMaster

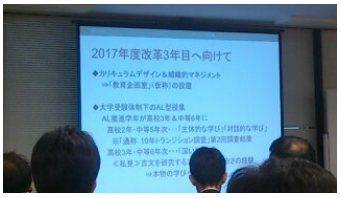
「アクティブラーニング型授業を定着・発展させる」研究会

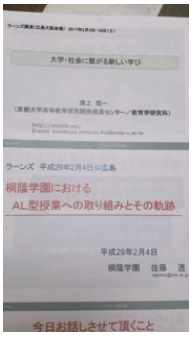
- 開催日時　2月4日（土）14：00～17：00
- 開催場所　TKP広島平和大通りカンファレンスセンター
- 主催　　（株）ラーンズ　営業開発部

先日、広島にて開催されたAL型授業研究会に参加してきました。昨年の研究会でも京都大学の溝上先生は登壇されていましたが、今年はその溝上先生に加えて、先生が教育顧問をされている桐蔭学園の実践が聞けるというので、大変楽しみにして出かけて行きました。第一部は溝上先生による講演。今回は自身の研究テーマである学校から社会へのトランジション（移行）という話は押さえつつ、AL型授業への転換の必要性等、会場からの質問を交えながら分かりやすく説明していただきました。「深い学び」は「ディープラーニング」に譲り、ALのポイントは「対話的」のところにあるという先生による学術的な見地からの興味深い話も聞けました。第二部は楽しみにしていた桐蔭学園の取組。佐藤透先生による講演です。桐蔭学園がなぜALに踏み切ったのか、その過程、また1年目の苦労2年目の実情、そして3年目に向けての展開などなど。どれもこれも聞き逃すまいと必死に傾聴しました。また、ALにかける、いや将来の子どもたちのためにかける先生の情熱に圧倒、感動、そして自身奮い立たされました。桐蔭学園がALの先鞭を付ける、ということで個人情報以外はすべてオープンにされています。「YouTube」始め、様々なツールで学園の取組が拝見できます。興味のある方は御覧下さい。

「意味を深く考えず、授業は黒板の丸写しで、暗記に頼ってテスト問題を解くような勉強だけなら、もうAIのほうが優れている・・・。」「目の前の生徒の10年後、20年後をイメージした授業デザイン、学習デザインを考える。」まさに生徒たちの未来のために。それが我々教育に携わる者の使命であることを再認識させられた研修となりました。ぜひ、来年度こそ訪問し、意見交換したいと思います。

（Ｎ．）





編集 | 削除

14:57 | 投票する | 投票数(1) | コメント(0)

2017/01/12 【アクティブ・ラーニング】教育改革推進フォーラム（那覇開催）

by:WebMaster

教育改革推進フォーラム（那覇開催）
～アクティブラーニングと学力の関係を考える～

- 開催日時　12月24日（土）11：00～18：00
- 開催場所　沖縄県市町村自治会館
- 主催　　産業能率大学
- 協力　　有限会社オーシャン・トゥエンティワン
- 協賛　　株式会社ＡＬ＆ＡＬ研究所

先日、沖縄にて開催された教育改革推進フォーラムに参加してきました。講演や体験授業等多くのセッションが用意されていました。私は、4時間とも文系の授業を体験しました。まずは、香山真一先生（岡山県立和気閑谷高等学校校長）の国語からスタートです。ジグソー法を用いて、二つの文章を比較するという比べ読みのような授業を体験しました。教科の値打ちを分からせるという大きな視点に立った、HR活動でも使えそうな授業でした。二時間目も国語。鈴木建生先生（産業能率大学経営学部教授）の授業は、コミュニケーション能力について考えることで、協同学習の意義を我々に教授してくれる構成となっていました。授業の最後には必ず個に返すというリフレクション。ALの基礎基本のような授業展開を学べました。三時間目は、前川修一先生（明光学園中学校・高等学校）の日本史。絵画資料を駆使した「看図アプローチ」という手法を初めて体験しました。最後は、自分にとって権力とは何か、という本質的、根源的な質問に収束していきました。自分たちにとってどれだけ価値ある質問ができるか、質問となり得るかを考えて発問しなければと改めて考えさせられました。四時間目は皆川雅樹先生（産業能率大学経営学部准教授）の日本史です。16マスに分割された一枚の紙に要点を書くというKP法は、生徒自身にやらせてみると自分の頭の中が整理されていいのではないかと感じました。140字要約はまさしく2次試験のようであり、国語力（要約力）が試される高度なものです。なかなか実施は難しいのではないかと思いましたが、確実に思考力は高められます。最後まで行き着かなくても過程が学習であると定義すると十分授業でも使える手法であると思います。全ての授業が、4～6人のグループで行われ、多種多様な先生方と多くのことを共有することができました。自分たちがアクティブラーナーになったことで、それら実際の経験を十分生徒たちに還元できるのではないかと感じました。その後、意見交換会があり、全国の先生方と情報交換することができました。

2016年、年の瀬。巷はクリスマス一色。私に取っては、今回の経験が何よりの自分へのクリスマスプレゼントとなりました。2016年4月、AL元年となった本県、本校のAL型授業が2017年、ゆっくりとではあるが、前に進み、生徒たちの主体的学習へ寄与できるように教職員一同研鑽に励む所存です。2017年も宜しくお願い致します。

（Ｎ．）

編集 | 削除

11:38 | 投票する | 投票数(1) | コメント(0)

2016/11/24 【アクティブ・ラーニング】公開授業（香川県立高松高等学校）

by:WebMaster

公開授業（香川県立高松高等学校）
（全国高等学校国語教育研究連合会　第49回　研究大会　香川大会）

- 期日　　平成28年10月28日（金）
- 会場　　香川県立高松高等学校
- タイトル　　生徒の疑問点を活かした古典の授業
- 科目、単元　２年古典Ｂ　「大鏡」

　高松高校は、高松市の中心部に位置し、創立124年目を迎える「独立自主」をモットーとする普通科高校である。授業は、生徒自らが学ぶことに重点を置き、65分5コマで組まれている。私は、２年古典Ｂ『大鏡』「弓争い」の授業を参観しました。生徒の疑問点から授業を組み立て、その疑問をみんなで解決していくことで教材を読み解いていく。1時間目に初読で疑問点を指摘させ、3つに絞った状態での2時間目であった。まず主語を押さえようと授業が始まった。ペアワークで疑問を解決していく。「では、話し合ったことを言ってもらいましょう」で、答え始める。「他に違う意見あるかなあ」で、どんどん手が挙がる。「さっき、だれそれ君はこう言いましたが、私はこう思います」「ここにこういうフレーズがあるから、こうと考えられます」自分の意見を持つ。何を言ってもいい雰囲気。また、分からないことを投げ出さない。分からないから考えてみる。分かる喜びを知っている。まさに主体的な学習が展開されていました。おもしろいなあ、と思わず鳥肌が立つ場面もありました。いい授業を参観させてもらいました。その後の研究協議でも、「生徒たちに自らが調べたい」と思わせるように授業を組み立てたとの発言があり、主体的な学びが担保できていると改めて授業者に感心した次第です。高松高校の皆さん大変お世話になりました。

（Ｎ．）

編集 | 削除　　11:14 | 投票する | 投票数(1) | コメント(0)

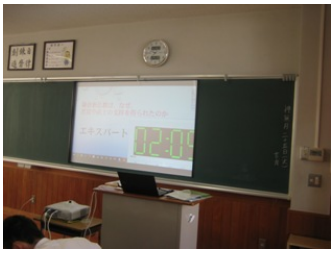
2016/11/18　【アクティブ・ラーニング】愛媛県立大洲高等学校　　by:WebMaster

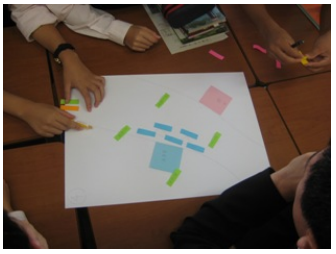
平成28年度　学校訪問研修（愛媛県立大洲高等学校）
「トライ！アクティブ・ラーニング」
―思考を活性化する主体的・協同的な学習の推進―

- 日時　10月25日（火）8：00～14：45
- 会場　愛媛県立大洲高等学校
- 日程
  - 8:00～ 9:00　受付
  - 8:25～ 8:35　朝読書
  - 8:35～ 8:45　ショートホームルーム
  - 8:50～ 9:00　清掃
  - 9:15～10:05　第１時限（授業参観）
  - 10:20～11:10　第２時限（授業参観）
  - 11:25～12:15　第３時限（ホームルーム活動参観）
  - 12:15～13:15　昼食
  - 13:15～14:45　分科会

4月に指定されたAL拠点校の一つ、大洲高校で学校訪問が開催されるというので、出かけていきました。第1時限か第3時限まですべての授業を参観させていただきました。どの授業も適切なところでALの手法を取り入れ、生徒の主体性を促していました。特に目を引いたのは、ICTの有効活用です。若い先生からベテランの先生まで、プロジェクターに始まり、スマートフォン、iPad、それぞれの機器を駆使して授業展開されていました。主体的・対話的で深い学びの実現には、ICTの活用による「わかりやすい授業の実現」が重要になってきます。これが見事になされていたことに感心しました。本校は昨年度よりICT教育の推進校にもなっているため、大変見習うべきところの多い、学校訪問となりました。先生、生徒が同じ方向を向いて、生徒たちの自己実現のために学習活動がなされているなあという印象を持ちました。大洲高校の皆さんありがとうございました。

（Ｎ．）





編集 | 削除　　10:08 | 投票する | 投票数(2) | コメント(0)

2016/11/06 【アクティブ・ラーニング】香川県立観音寺第一高等学校公開授業研究会

by:WebMaster

香川県立観音寺第一高等学校　公開授業研究会
「主体的で対話的な深い学びをめざして」
～アクティブ・ラーニングとクロスカリキュラム～

- 日時　10月19日（水）10：00～15：35
- 会場　香川県立観音寺第一高等学校（百周年記念館大会議室）
- 日程
  - 10:00～10:20　受付（百周年記念館玄関ホール）
  - 10:20～10:45　開会行事　講師紹介・日程等
  - 10:55～11:50　研究授業1（数学・家庭）、公開授業1
  - 昼食
  - 12:20～13:15　研究授業2（国・地歴・理科）、公開授業2
  - 13:30～14:30
    基調講演
    - 講師　国立教育政策研究所　総括研究官 後藤顕一氏
    - 演題　「求められる資質・能力とアクティブ・ラーニング」
  - 14:35～15:25　パネルディスカッション
  - 15:25～15:35　閉会行事

香川県立観音寺第一高等学校は、平成23年度からSSHの指定を受け、地域に根ざし、国際舞台で活躍できる、高い志と使命感をもった科学者、技術者を育成するために、探究力や国際性、科学リテラシー、地域貢献への意識の育成に向けたプログラムの研究開発や、全教科・全科目でALの視点に基づく授業改善に取り組んでいます。そのような中、現時点での授業改善の取組と研究を公開し、今後の取組に活かすべく、公開授業研究会が開催されました。隣県ということで、早速出かけていきました。平成27年には溝上先生（京都大学教授）、小林先生（産能大学教授）をお呼びして研修したり、先生方も各地の研究会に赴き、研鑽を積んでおられるようです。私は、入江孝彰教諭の数学と佐?ゆみ教諭・乃口哲朗教諭による国語の授業を参観させていただきました。入江先生は、グループでパソコンを操作させ、図形を表す公式を描画させていました。ICTを上手く活用されており、学ぶところの多い授業でした。国語は『二十億光年の孤独』という詩を扱っていました。物理の乃口先生が宇宙の講義をされ、そこから詩の鑑賞に移ります。文理が融合された不思議な空間が生まれ、生徒たちは新鮮な気持ちで詩の学習に取り組んでいました。その後、後藤顕一氏から基調講演がありました。子どもたちに本当に付けたい力は何なのか。だからこの方法を取る。その一つがＡＬである。また、小学生から高校生、いや大人まで表現力のなさが目立つ。それが我が国の教育課題である。失敗を恐れる。自己肯定感が低い。よって、表現したがらない。このあたりを問題意識として持ちつつ、授業をデザインしていきたいと切実に感じた講演でした。パネルディスカッションでは、授業をされた先生方の本研究授業への思いが述べられました。後藤氏、大崎理乃氏（産業技術大学院・産業技術研究科・助教）による総括の中で、大崎氏が鳥取のある先生の言葉を紹介されました。「子どもは学びたがっている。だから、子どもに主導権をどう渡すのかが大切である」大崎氏は「教員はそれをどうやって促すか、どうマネジメントするかを考えなければならない」と続けられました。まさにファシリテーターとしてのカ量が問われているということでしょう。

初めて訪れた学校でしたが、学校全体が力強く前進している印象を持ちました。生徒たちの言動、多士済々、この中から優秀な人材が生まれるのだろうなあ、と思わされました。

本校も負けぬように社会に有益な人材を輩出できるよう精進していきたいと思います。

（N．）

2016/11/01 【アクティブ・ラーニング】大学教育再生加速プログラムシンポジウム

by:WebMaster

大学教育再生加速プログラム（ＡＰ）シンポジウム
「主体的な学びを促す高大接続の取り組みと課題」

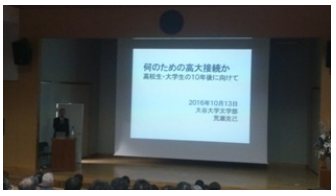
- 日時　10月13日（木）13：30～17：00
- 場所　愛媛大学南加記念ホール
- 主催　愛媛大学教育・学生支援機構、高大接続推進室
- 対象　高等教育機関・高等学校関係教職員

愛媛大学では、文部科学省の「大学教育再生加速プログラム」に採択された事業（テーマ3：高大接続）において、高校と大学が各々の教育目標や教育内容、方法について相互理解を図り、高校教育と大学教育の連携を強力に進めるための新たな取組を展開している。その取組について、シンポジウムが開催されるというので参加してきました。「堀川の奇跡」荒瀬克己先生（大谷大学文学部教授）の基調講演から始まりました。学び方を学ぶ「探究」という話をじっくりと伺うことができました。便利な世の中だからこそ、生徒にある程度の負荷をかける必要性を述べられました。先生の言葉で言えば、「楽しんどい」。ＡＬにも言及されました。クラスで「分からない」と言える環境がまず大切である。その言葉が受け入れられるクラス作り。私も常々感じていることですが、ＡＬがうまくいくクラスは雰囲気がいい。これは人権教育にもつながるかもしれません。逆に、ＡＬを通してクラス経営ができるとも言えます。自己を受け入れるとともに他者を受け入れる。中教審答申にある「開かれた個」をいかに育てるか、考え続けていきたいと思います。続いて、事例が３本報告されました。野村純先生（千葉大学教育学部教授）は理系に強い千葉大学という観点で、留学生活用の取組を述べられました。地元松山東高校の加藤伸弥先生は、ＳＧＨにおける探究学習を紹介しながら愛媛大学といかに連携しているかを述べられました。愛媛大学社会共創学部の徐祝旗先生は、社会共創学部の入試方法と入学後の教育を述べられました。大変詳細に説明していただき、今後の進路指導の参考になりました。最後は先生方のディスカッションで閉会しました。現場でいつも話題になる「探究型学習をさせて、受験は大丈夫なのか」「テストで高得点を取る生徒と課題研究でいいものを作る生徒は違うのか」はっきりと言えることは、探究型は無駄にならないということ。探究型で学習意欲が高まるため、受験勉強にも意欲が出る。高校側、大学側の生の声が聞け、充実した研修となりました。

ホールを出ると卒業生に声をかけられました。愛媛県の教員採用試験に合格したとのこと。大学でがんばったそうです。「主体的な学び」とはそもそも何か。帰校して、推薦入試指導（探究型）をしなければ、と思いながら太陽が沈み行く西の空を眺めました。

（Ｎ．）

パンフレットはPDF形式ファイルです。ご覧ください。
パンフレット.pdf



2016/10/10 【アクティブ・ラーニング】アクティブ・ラーニングについての講演会

by:WebMaster

- 日時　8月23日（火）14：00～15：30
- 会場　愛媛県立松山西中等教育学校　会議室
- 講師　広島県立祇園北高等学校長　柞磨　昭孝　氏

松山西中等教育学校が柞磨昭孝先生を呼ばれるというので、早速申し込みをさせていただきました。柞磨先生は本校が夏季休業中にお招きした才木先生と一緒に広島県立廿日市高校でＡＬ導入に尽力された先生で、実践を理論的に解釈されると伺っていたので、楽しみにしていました。

今回の演題「ICEモデルを軸としたアクティブ・ラーニング」とあるようにICEが話の中心でした。Ｉ（Ideas）、知識レベル。Ｃ（Connections）、知識のつながり。Ｅ（Extensions）、応用や創造。どのレベルで目標を設定するかが大切である。そして、どのレベルで発問するか、発問の大切さを改めて学びました。普段我々は普通に発問していますが、これはIレベルだ、これはCレベルだ、Eレベルだとしっかりと問いを作ってから発問する、いわゆる授業をデザインする必要があります。また、Ｉ・Ｃ・Ｅと順次「積み上げていく」ことを考えがちです

が、逆にEを先に提示して、生徒たちに「おもしろそうだな」と思わせてI・Cへと展開するという方法も早速使える方法だと思いました。「E」からの逆算による授業構成、「刺激的」「役に立つ」というリアリティのデザイン、ジグソー活動等による知識・技能の統合的な活用により「深い学び」が実現する。この3ポイントを念頭に置いてALの授業を展開していきたい。最後は、評価という話をしていただきました。評価もICEレベルでルーブリックを作成し、得点化していけばいい。それら評価問題から授業を変えてみるという示唆もいただきました。

始めに、「ICEモデル」という考え方が私には合っていた、とおしゃっておられたが、確かに、これはどのレベルか考えた発問、授業デザインは授業する側からしても意識化できるし、今、何をやっているのか、どこに向かっているのか、分かりやすいと思いました。

才木先生もおっしゃっておられたが、「全校的な取組にする」という重要さを最後に述べられた。やはり学校という大きな組織が同じ方向を向いていなければ、教育的効果は現れない。形を作り、逆戻りさせないという強い思いの大切さをも学んだ講演でした。

（N．）

編集 | 削除　　13:15 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2016/10/03　【アクティブ・ラーニング】教育改革先取り対応セミナー　by:WebMaster

- 開催日時　8月18日（木）13：00～17：20
- 開催場所　神戸国際会議場
- 主催　日本教育新聞社／株式会社ナガセ

「大学入学希望者学力評価テスト」（仮称）の導入や、次期学習指導要領の審議が本格化している高校教育など、高大接続改革に焦点を当てた「教育改革先取りセミナー」が今夏、全国12会場で開催されました。昨年は広島会場に参加しましたが、今年は当日本校にて才木先生の講演会があったので、別日、神戸まで足を伸ばしました。

文科省が進める「高大接続システム改革」をテーマに、伯井美徳氏（大学入試センター理事・副所長、前文科省大臣官房審議官）の基調講演で始まりました。高大接続システム会議の「最終報告」を踏まえ、「高大接続改革」の理念と経緯、高校教育の改革、大学教育の改革、大学入学者選抜の改革の狙いなどを説明していただきました。常に最新の情報を得ていなければならないと改めて感じました。

特別講演は溝上慎一先生（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）に「アクティブラーニング型授業への転換」という演題で講演していただきました。先生のメイン研究テーマは「トランジション」（移行）です。学校から仕事・社会へのトランジション課題解決のために、ＡＬが必要だと主張されています。「高校１・２年生で将来を見通せない生徒は大学でも成長しない」という調査結果にはいつもながらどきっとさせられます。その追跡調査を元に高校での授業改善が必要であるという従来からの主張に共感しています。

続く分科会Ａは東進英語科講師、元「英語教育の在り方に関する有識者会議」委員の安河内哲也先生による英語４技能教育の授業実践が行われました。短い時間でしたが、実際に高校で行われているＡＬ型授業の実践映像も交え、授業のポイントを解説していただきました。

最後は実際に高校でＡＬを実践されている先生の講演です。神戸会場は布村浩二先生（東大寺学園高等学校）による実践と考察でした。中学１年生から高校３年生各段階でどのような指導をしているのか、詳細にお話ししていただきました。模試を解かせるだけでなく、自分たちで問題を作らせる。「自分たちだけの」というのが大切なことであろう。また、実際に「経験させる」重要性も述べられました。経験に勝るものなしということであろう。「教員側もアクティブにならないとアクティブ・ラーニングはできない。授業の工夫に時間と労力をかける必要がある」と語られました。目の前の生徒の状況に合わせて工夫することを忘れないように生徒と向き合っていかなければなりません。

その後、意見交換会があり、他県の先生方と情報交換することができました。文科省関係者などから直接、改革の狙い、進捗状況などを聞くとともにＡＬの視点から授業改善についても学ぶ良い機会となりました。

（N．）

2016/09/09　【アクティブ・ラーニング】メディア教育研究会 夏季セミナー　by:WebMaster

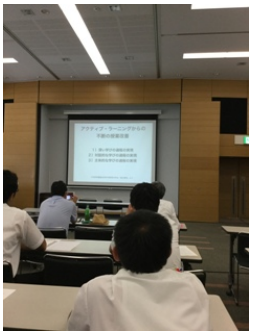
D-project香川 メディア教育研究会 夏季セミナー

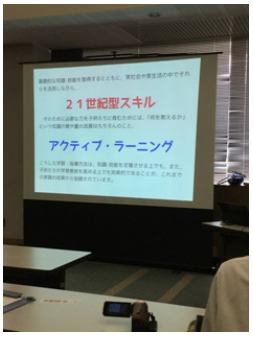
- 日時　7月31日（日）9：00～17：00
- 場所　丸亀市保健福祉センター
- 主催　D-project香川　香川メディア教育研究会
- 後援　香川県教育委員会
  丸亀市教育委員会　高松市教育委員会　観音寺市教育委員会
  三豊市教育委員会　坂出市教育委員会

主体的・対話的で深い学びの実現には、授業やカリキュラムの改善に向けた取組、21世紀を生き抜くために必要不可欠である「情報活用能力」の育成、ICTの活用による「わかりやすい授業の実現」が重要になってきます。ALの参考になればと香川メディア研究会のセミナーに参加してきました。放送大学中川一史先生の基調講演の後、それぞれのワークショップに分かれてICTの活用方法を学んでいきました。私は、「21世紀型スキル育成アクティブ・ラーニング研修」というワークショップを体験しました。Intelマスターティーチャーの資格を持つ講師陣によるワークショップです。21世紀型スキル養成、プロジェクト型アプローチの視点での授業改善方法を学びました。21世紀型スキルとは「イノベーションのための学習スキル」「情報、メディア、テクノロジーのスキル」「キャリア（生活と仕事）のスキル」であり、それらのどのスキルを生徒に身に付けさせたいかを意識しながら授業を組み立てていきます。また、プロジェクト型アプローチの視点においては、内容質問、単元質問、本質的質問と次第に上位概念の質問を考えていきます。はっきりと答えが出る知識の問題からその生徒が単元が終わってからも考え続ける、社会人になってからも考え続ける本質的な質問ということです。実際、私も単元計画シートを作成してみましたが、この本質的質問（生徒に考え続けさせる質問）を作るのに大変苦労しました。しかし、この質問の善し悪しでALが活発になされるか否か大きく分かれるだろうと実感しました。

最後は金沢星稜大学の佐藤幸江先生のクロージングパネルで幕を閉じました。その後、情報交換会・懇親会があり、活発な意見交換ができました。今回は義務教育の先生方も多く参加されるセミナーであり、常々ALは義務教育の方が研究が進んでいると思っていた私にとって、いい刺激となり、義務教育の現状も本校へ持ち帰ることができました。当日の丸亀は、アスファルトからの照り返しも強く、丸亀城が歪んで見えるほどの暑さでしたが、出かけていった甲斐があった密度の濃い研修でした。

（N.）





編集 | 削除　　17:24 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2016/09/01　【アクティブ・ラーニング】授業アンケート　| by:WebMaster

本校では教員の授業改善、また生徒の学習意欲を高めるために「生徒による授業評価および生徒による自己評価」を実施しております。本年度も1学期期末考査終了後、3年生を対象に本アンケートを実施しました。その項目の「授業に対する要望があれば書いてください。」の中からアクティブラーニング（以下AL）に関するものを抜き出してみました。

［現代文］

1. 先生の授業を受けるのは今年で2回目で去年よりもちゃんとグループディスカッションができるようになり、自分で考え、意見を言い、友達の意見も取り入れ、自分たちが主体となって現代文を学べるようになりました。また、グループディスカッションをしていて、普段の会話の中でも自分の意見を言えることが多くなりました。
2. 班で活動すると分からないところを友達に聞けたり、自分なら考えないような考えと出会ったりするので楽しいです。

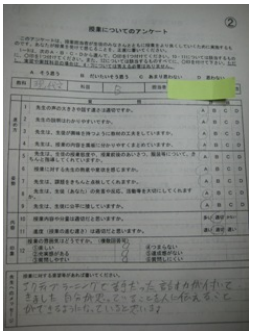
3. 文章を読んでいて「この一文にはどういう意図が込められているんだろう。作者が一番言いたい部分はどこなんだろう」と考えることが本当に楽しいです。要約することによって自分の理解度もよく分かるし、友達の意見を聞いたときに自分の解釈と全く違っていたり、それがおもしろくて現文の時間はとても充実できてあっという間に終わってしまします。
4. ALは他の人に意見を聞きやすい環境が自然とできあがるので、とても楽しく活発に行うことができます。何より授業中に寝ることがないのも利点の一つだと思います。
5. ホワイトシートにまとめるのは黒板に書くより覚えやすくてとてもいいと思います。一人でまとめるよりみんなでまとめた方が他の考えとかも出てきてよりいいまとめができています。まとめる力、それをどう上手く発表したら相手に伝わるか（表現力）が一時間で学べてすごくありがたい。
6. ALによって、他の人の意見を聞けたり、他の班のまとめ方を見ることができて、自分の考えがどれだけ片寄っているか知ることができた。視点を変えてみるということを意識して読んでも、自分の気づかないことが沢山あるのでALは本当にいいと思った。
7. 友達と一緒に考えることによって、分からない問題が理解できるようになったり、自分が思っている考えとは違う意見が出てきて別の視点について考えられるようになったと思います。私は積極的に意見を言うことができないので、ちゃんと自分から進んで言うことができるようになりたいです。自分でしっかり考えるのは大切であると改めて実感できました。
8. ALを通して友達の意見をたくさん聞くことが増え、自分から興味を持って本文を読んだり、考えたりできるようになりました。今までは、ただ読んでいただけの教科書でしたが、最近はこんなことが伝えたかったんだなあとか、こんな考え方したことなかったなあ、と教科書からたくさん学ぶことが増えました。
9. 授業のスタイルが今までの先生とは違い、最初は全然分からなくて戸惑うことも多かったです。ですが、自分も参加しているという意識もあり、聞くだけでなく、自分も考えたり、発言するということで授業に参加しているという実感がありました。ですが、まだまだ理解しきれていない部分もあり、あいまいな部分も多々あります。なので、これからは分からないところを問題解決をもっとできる場を作っていきたいと思います。
10. ノート作りは自分たちだけで作るからどこが大切でどこが重要なのかを考えながら作るから、普段の授業より頭に入る。班活動で行うから友達の意見を聞きながら自分の主張を言ったり、他の班のものを見て意見を言ったり、自分で言いたいことが言いやすい授業だと思う。
11. 班での話し合いに参加して自分の意見を言えるようになった。違ったことを言ったりしたけれど、いい経験で逆に頭に入っていたと思う。他の人の意見を聞いて新たな考え方とかを知り、ALはとてもいい授業だと思う。
12. ALのおかげで授業で習ったこと、考えたことがノートをちょっと見ただけですぐに頭に戻ってきてずっと残っているので、テスト勉強もやりやすかったです。
13. ALをして、お互いを高め合ってるのを感じました。友人が理解しているのに自分が理解していなかったら悔しいし、やる気がおこりました。
14. 自分の頭を使って教科書の内容をまとめてノートを作るということが初めてで最初は授業について行けなかったけど、最近は話し合いに参加して一緒にまとめることができるようになってきて学習することが楽しく感じます。
15. 多くの作品を読んで、少し自分の考え方が変わった気がします。班の中にも違う意見を持った人がいて、その人の話を聞くとまた違う考え方もあるんだなと思う時があります。人の意見を聞くことで、さらにいい結果が出るんだと思いました。
16. 2年生の時は正直寝てしまっていることが多くて、欠点を取ってしまうこともあったのですが、3年生になって積極的にALに参加することで、以前より頭にちゃんと入っていった気がします。ALでは意見を出し合うことで、その題でいろんな視点から見ることができました。
17. 私は1学期を振り返って2年生の頃よりカが付いたと感じます。ものをまとめる力が付き、たとえなのかまとめなのか、はっきり分かるようになり、前よりも読みやすくなりました。
18. 1学期の授業を通して、文章に対しての意見を持てるようになりました。また、人の意見を聞く力も付いたと思います。
19. ALのおかげで、国語のおもしろさに気づきました。様々な意見を共有することが大事だと感じました。
20. ALを通して、やはりできる人との会話の中で、何を考え、何をポイントに見ているかが分かりました。まだ、模試などではなかなか答えまでたどり着くことができませんが、考えられるようになりたいです。

［古典］

1. 班で授業をするので、自分と違う意見を共有し合えることができたり、分からないところを教えてもらったりできるので理解しやすいです。
2. グループで話し合う時にもっと声に出して意見を出し合えたらよかった。答えを求めるのではなく、どのように考えたかをたくさんの人から聞きたい。全く分からない問題でもすぐあきらめずに、どうにかして何らかの答えの手がかりを見つけたい。
3. 古典の読み方が分かるようになりました。自ら友達と分からないところを教え合っていると、自分にとっても授業内容が身に付いているのを実感します。これからもALの授業スタイルで取り組みたいです。
4. 2年でも伸び悩んでいた成績が少しずつ上がってきているのでよかった。ALは印象に残りやすく楽しいから、どの授業でもしてほしい。
5. 分からないところがあったら友達にすぐ質問できるAL好きです。
6. 毎時間のALで他の人の考えが分かり、自分が考えてないことが分かり、知識が増えて楽しかったです。
7. 3年生になると2年生よりもALの質が高まった気がしました。みんなの意見を聞いて納得するようなことが何度もありました。ALの授業はとても頭に定着すると思いました。
8. 前のクラスの先生とのギャップに慣れるまでしんどかった。ALで自分の意見を持ちやすくなった。
9. 授業では班の人たちも積極的に発言してくれていたので理解が深まって行くのが分かったし、楽しくできた。自分自身も分かるところがあれば積極的に発言することができたと思う。
10. 1年生の時に比べて文法が身についてきていると感じることが多くなりました。分かることが多くなると読むのが楽しくなりました。
11. 授業はALという形で先生が先に教えてくれるのではなく、まず自分たちの分からないところを話し合って進めていて覚えやすいです。
12. ホワイトシートにまとめて前で発表することは自分のためになりとてもよかった。「誰かが挙手して発表する」のではなく「個人個人で自由に発言する」ことができる授業の雰囲気が好き。
13. とても楽しく充実した授業ができました。座ってずっと黒板に向かっている授業なんかよりもよっぽど自分のためになったなと思います。おかげでテストもさほど悪くない得点でした。
14. 班に仲のよい人がいないと話し合いに参加できない時があるので、2学期はもっと積極的に参加したい。
15. ○○先生の授業に初めはどうしていいか分からず、ついて行けるか心配でした。でも、先生の授業スタイルで古典が楽しくなりました。自分でやっていくので頭にも残りやすくまた積極性も身に付いたと思います。まだまだ、分かっていても口に出せずにいる時があるのでもっと積極性を出していこうと思います。
16. 今までにない授業の方法で勉強することで、自分たちのペースでできるので授業内容も理解しやすい。
17. 古典好きになってきました。まだまだ点は出ないけど、ALでみんなと助け合って知恵を出して、全くだった単語も少しできるようになりました。
18. 自分は古典が苦手なので班のみんなで分からないところを教えてもらったり、一緒に考えるというこのスタイルの授業は自分に合っていると思います。
19. 自分たちで考える授業をしてくれるので、その日にやったことが身に付いていっている気がします。

20. ALをすることで、自分一人の片寄った考えだけでなく、いろいろな視点から話を読むことができて楽しかった。

今回は国語のアンケート結果を抜粋しましたが、本校教職員積極的にALを授業に取り入れ、生徒たちに自ら学ぶ姿勢が身に付くように授業を工夫しています。生徒たちにもおおむねAL型授業は好評であり、また定着もしてきたようです。2学期もこの調子で生徒の主体性を育んでいきたいと思います。



編集 | 削除　　14:31 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2016/08/29　【アクティブ・ラーニング】アクティブ・ラーニングに係る講演会　by:WebMaster

- 日時　8月19日（金）15：00～16：30
- 場所　本校会議室
- 講師　学校法人　古沢学園　都市学園大グループ　理事
  前広島県立廿日市高等学校長
  才木　裕久　氏

夏季休業中に合わせて外部講師を招いてのAL研修会を計画しました。頭に浮かんだのが広島の才木先生。才木先生には昨年12月産業能率大学主催「授業改革推進フォーラム」の際、「松山くらい行きますよ」と優しい言葉をかけていただいていました。その言葉に甘えて講師を依頼したところ、快く引き受けていただき、今回の講演会が実現したのです。まだまだ黎明期である本校ALにおいて、そもそもALとは何かから始まり、自らの実践例を詳細に話していただき、我々に大きな示唆を与えていただきました。

まず、できることからでいいし、すでに我々はALという手法を用いている、という言葉に勇気付けられ、講演の後早速、「ALやってみようかな」という先生の発言もちらほら。もちろんALという手法ありきではなく、生徒のための授業改善ということが基本です。なぜ、今授業改善が求められているのかということを頭に置き、我々の生徒のために、まさに「主体的・対話的で深い学び」の実現に尽力しようと教職員一同の心に火が付いたはずです。当日はグループ校の先生方にも参加していただいており、各校へも先生の熱い想いを持ち帰っていただけたことと確信しています。

「学校は内側からしか変わらない」「先生も内側からしか変わらない」確かに、外から強制されたことは自分の身にならない。現状維持は退行であると考え、我々自身切磋琢磨していこうと確認しあった研修会でした。

才木先生本当にありがとうございました。

(N.)

2016/08/19　【アクティブ・ラーニング】第１０回キャリア教育推進フォーラム　by:WebMaster

- 開催日時　8月5日（金）11：00～18：00
- 開催場所　産業能率大学　自由が丘キャンパス

先日、第10回目を迎えたキャリア教育推進フォーラムに参加してきました。全国から300名を超える参加者。入りきれずにオブザーバー参加の先生方多数。会場は当日の猛暑に負けない熱気に包まれていました。福岡県教育センターの和田美千代先生の「ドリカムプラン　キャリア教育からアクティブラーニングへ」と題された講演で幕を開けました。どうすれば生徒が「主体的」になるのかという大きなヒントをいただきました。

午後はAL型授業の体験がありました。私は、数学石山信幸先生（福岡県久留米市立南筑高等学校）国語渡邉久暢先生（福井県立若狭高等学校）の授業を体験しました。石山先生の2次関数をどう自分の言葉で表現するか。渡邉先生の綿密に計算された授業展開は大変参考になりました。その後、授業者との意見交換もあり、積極的な質問と回答は今後の指導に役立つものばかりでした。分かる人が分からない人にいかに教えるか。お互いを大切にしようという人権教育の視点からALを構築されている石山先生。授業の最後にその一時間をまとめがちな我々ですが、あえてまとめずに生徒たちに「考え続けさせる」という渡邉先生の手法は早速取り入れたいと思いました。

最後は溝上慎一先生（京都大学高等教育研究開発推進センター）下町壽男先生（岩手県立花巻北高等学校長）小林昭文先生（産業能率大学経営学部教授）鈴木建生先生（産業能率大学経営学部教授）というそうそうたるメンバーによる「その先のアクティブラーニング」と題されたディスカッション。昨今のALについて思うこと、またその先のALについて会場からの質問も含めて議論されました。溝上先生は研究者の立場から、ALは一過性のブームではなく施策として進められている課題であり、一番問題なのは行動なき批判であると述べられました。下町先生は教師のマインドが変わらないままのALの危険性に警鐘を鳴らしておられました。小林先生は校長先生に強いリーダーシップを発揮していただきたいと現場におられた実感を話されました。鈴木先生も現場の経験から、授業の中で自己存在感を持たせるALであってほしいと述べられました。会場からの質問も含めて非常にためになる話でありました。その後意見交換会があり、全国の先生方と情報交換することができました。

いつもながら、井の中の蛙、お山の大将にならないためにも各県の状況、全国の動きにも細心の注意を払い、取り入れることができるものは取り入れ、本県、また本校のALの充実を図っていきたいと思わされた充実の一日でありました。

(N.)

編集 | 削除　　08:25 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2016/08/01　**【アクティブ・ラーニング】グループ校との合同学習会を行いました。**　|
by:WebMaster

　平成28年度高校生アクティブ・ラーニング推進事業におけるグループ校との合同学習会として、AO・推薦入試対策講座「グループディスカッションの対策・練習」を7月28日、29日の2日間、伊予高校で実施しました。この学習会は本校と同じグループである「松山Cブロック」の松山中央高校、上浮穴高校、小田高校、伊予農業高校、伊予高校の5校による合同学習会です。その内容は看護・医療系、地域創生系のグループディスカッションの練習を1日2題、計4題、28日は73名、29日は86名の生徒で行いました。引率の先生方には討論の各グループを担当していただき、討論に対してアドバイスをしていただきました。参加生徒は、普段ではあまり経験のできない他校生とのディスカッションによって、たくさんのことを得ることができたようです。

～生徒の感想～

- 今回の学習会は私にとってとても大きなものとなりました。どのように進めていっていいかもわかりませんでしたが、冷静に物事を判断する力がどのような場面でも必要だと感じました。

- 入試にグループディスカッションがあるのでとても不安に感じていました。しかし、この学習会に参加させていただいて大変勉強になり、不安も少し小さくなりました。
- 1日目は全く自分の意見が言えなかったけど、2日目には少し話すことができるようになりました。他の人の意見に便乗しすぎているところがあったので自分の意見を言えるようにしていきます。
- 実際に他校の生徒と討論をして、討論には知識が必要だと感じた。討論を進めていくうちに人の話を聞くことで新しい発見をして、自分の考えが変わる場面があった。話す力だけでなく、聞く力の大切さにも気づいた。

編集 | 削除　　14:30 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

2016/06/27　**【アクティブ・ラーニング】可児高校　月例授業公開、エンリッチ報告会**　by:WebMaster

- 開催日時　平成28年5月27日（金）
  - 授業公開　10：00～15：10
  - エンリッチ報告会　15：40～20：00
- 開催場所
  - 岐阜県立可児高等学校
  - 可児市文化創造センター

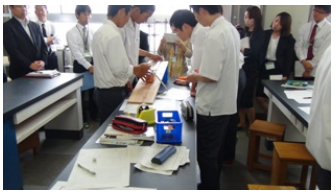
本県ではこの４月より国の教育改革の柱である「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）」に先進的に取り組むことにより、新しい時代に求められる生徒の学力向上とともに、本県の未来を開く人材の育成を図る事業を開始しました。その事業において、本校はアクティブ・ラーニング（以下ＡＬ）に先進的に取り組むＡＬ拠点校に指定されました。（３年計画）今後、その取組を随時このＨＰを利用して掲載していきたいと思います。

去る５月２７日（金）先進校視察ということで岐阜県立可児高等学校に行ってきました。

授業は、浦崎太郎教諭の「物理基礎」、松井真也教諭の「数学Ｂ」を参観しました。浦崎先生は生徒たちに探究プロセスを意識化させることに主眼を置いた授業を展開されていました。力・質量・加速度の関係を、実験を通して探究的に明らかにさせることにより、生徒たちにより深く「運動の法則」の意味を理解させていました。松井先生には、探究も大切だが、普段の習得はよりいっそう重要ということで、習得場面におけるＡＬ型授業を見せていただきました。生徒たちがグループになり教えあう姿、それをしっかりと支援する教師の姿を学びました。

可児高校では「ＡＬは、学校で扱うことも重要であるが、それ以上に地域で現実の課題解決活動において体験させる方が自然かつ有効である」という考えの下、地域のＮＰＯ法人、可児市議会との連携により生徒たちに課題解決の力をつけさせるとともに地域の活性化に努めています。授業参観後は、それら地域との取組報告がありました。最後は、文部科学省の初等中等教育局参事官（学校運営支援担当）付参事官補佐の廣田貢氏「これからの学校と地域の連携・協働の姿～地域みんなで子供たちの未来を考える～」という題の講演を拝聴しました。充実した一日で、本校ＡＬのあり方に大変参考になりました。

（ｎ）



編集 | 削除

16:18 | 投票する | 投票数(0) | コメント(0)

カテゴリ選択 ▼ 100件 ▼

Powered by NetCommons2 The NetCommons Project